

建物としての象徴性。
人々が「力」によって引き寄せられるような意匠。道標という意味を持ち合わせる「灯籠」を想起させるデザインを用いた。鹿児島島の伝統工芸品である薩摩漆子の文様をモチーフにしている。

通路が建物に巻きつくことで、
建物自体が1つの街道のようになり、場所ごとに様々な表情を持つ。

中央の建物は柱だけで構成することで、言葉の持つ力の強さをよりいっそう感じてもらいやすい広がりがある独特な空間に。特攻隊や薩摩偉人たちの資料、本等を配置する。

3つの機能

①知覧特攻平和会館・薩摩偉人資料の仮設展示

知覧特攻平和会館や江戸薩摩の偉人の資料の一部を借り受け、展示する。知覧特攻平和会館や薩摩の資料がある仙巖園等の施設は市内から離れており、行こうと思わなければ訪れない施設だが、この場所に一部持ってくることで、よりたくさんの人が言葉に触れられる機会を増やす。

②願いを書いた紙を絵馬のように建物に結びつける

神社では絵馬に願事を書いて決められた場所に結びつけるが、この建物でも願いを書いた紙を神社のおみくじのように建物の構造体に結びつけて祈願を行う。訪れた人の手によってこの建物の「言葉の密度」が上がり、時間とともにより言葉を感じられる空間が形成される。

③ライブラリー

地域住民が使用しなくなった本を持ち寄り、また持ち出すことで、この施設を中心に街中に言葉の形である「本」の流れを生み出す。通路沿いや壁等の建物の至る所に本棚をもうけ、「言葉」を宿した「本」との出会いを演出する。

アーケードの活性化

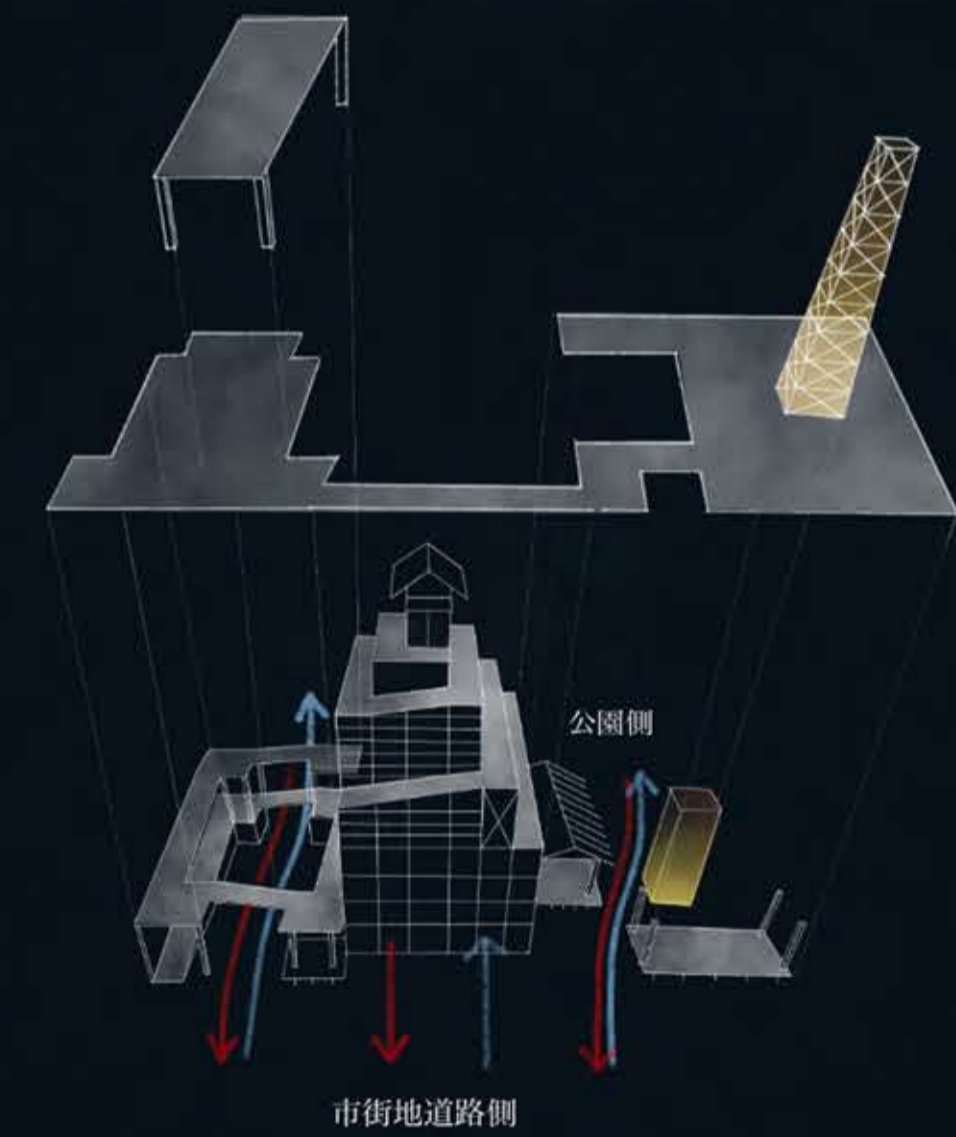


本施設が建つことで大型商業施設との間に人の流れができ、天文館アーケードの活性化にも繋がる



周辺敷地との繋がり

道路側から建物方向の動線は徐々に空間が発散していくのに対し、公園側から建物方向の動線は徐々に空間が収束していく



建物内の言葉を宿した資料に関する話を話し合う空間。日常生活の会話のワンシーンともなりうる。

